

8月24日(月)

## 道案内

聖書朗読 ヨハネ 8：21～30

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

ヨハネ 14：6

彼女はまだ四歳でしたが、帰宅する道順を知っていると自信を持っていました。とある日、父親が車を運転している時に自分が道案内をするから、それに従って運転して欲しいと言いました。最初の曲がり角は自信を持って道案内できました。二番目の曲がり角は、最初の時ほどの自信はありませんでした。そして、通りが似たような景色になると、もう道案内は出来ないと諦めました。完全に道に迷ってしまったのです。そして、遂に泣き出して、父親に自分では道案内は出来ないのだから家に連れ帰って欲しいと伝えました。それを聞いた父親は正しい道へと戻り、無事帰宅しました。

ヨハネ8章で、イエス様はユダヤ人たちに「わたしが行くところに、あなたがたは来ることができません」と言われました。なぜならば、ユダヤ人たちはイエス様を信じていなかったからです。後に、イエス様は弟子たちにイエス様を信じるのが唯一の方法であり、イエス様を信じることなく神様の御許へ行くことは出来ないとお伝えになりました。私たちもよく、先ほどの四歳の女の子のようになってしまうことがありますか？ 自分自身だけで道順が分かったような気になっているのです。本当は無力な人間であるということを忘れていているのです。もしイエス様を信じて従うのなら、イエス様が私たちを導いて下さるのです。もし道に迷うことがあっても、正しい道へと導いて下さるのです。

讃美歌 294

祈り 神様、傲慢になり自分一人で正しい道を見つけられるとってしまう時があることをお赦し下さい。そんな時はどうぞ、正しい道へと導き下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ジョイス・ハーディン  
テキサス州オースティン

## 今日の力

2020年8月24日～8月30日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

8月25日(火)

## もしその時

聖書朗読 ヨハネ 11:28~37

しかし、神に感謝すべきです。神は、わたしたちの王イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えて下さいました。  
Iコリント 15:57

イエス様の友達のラザロが息を引き取った時、イエス様はその場にはおられませんでしたが、ラザロが亡くなったことを嘆く人々が集まり、彼らは「もしイエス様さえ居て下されば、ラザロは死なずに済んだのに」と思いました。

イエス様がいらっしゃった時、マルタは出迎えに行き、泣きながら「主よ。もしここにいて下さったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに」と言いました。そして、マルタがマリヤをイエス様の所へ連れてきたら、マリヤも「主よ。もしここにいて下さったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに」と言いました。イエス様がラザロを愛しておられたのは、イエス様も涙を流されたことから分かります。その場に居た人は「見えない人の目を開けたこの方も、ラザロが死なないようにすることはできなかったのか」と言いました。

ここでイエス様を信じていない人達の「もう遅すぎるけど」と言う心の方が聞こえます。イエス様の御力により、ラザロが生き返るとは全く考えていないのです。私達も同じように感じてしまうことはありませんか？「神様、私が完全に失敗した時（もしくはとても傷ついた時など）に共に居て下されば良かったのに。でももう遅すぎます」と思うことはありませんか？

「ラザロよ、出て来なさい」。この言葉が、イエス様の御教えが真実であることを示しました。たとえ、お墓の前に石が置かれ、死後四日も経っていても、イエス様はラザロを生き返らせることが出来たのです。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです」。

讃美歌 187

祈り 神様、独りよがりになってしまう時、どうぞ正しい道へとお導き下さい。いつもイエス様の導きへ従うことが出来ますように。  
イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

カーティス・K・シェルバーン  
テキサス州ムレシュ

8月26日(水)

## 喜びのイベント

聖書朗読 ヨハネ 12:12~19

シオンの娘よ、大いに喜び。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。  
ゼカリヤ 9:9

私は、ワクワクするイベントを計画することを喜びとしています。私が昔から楽しんでいる趣味だと言えましょう。イエス様の「エルサレム入城」を人々が祝った出来事も、とてもワクワクするイベントだったと思います。しかも、「エルサレム入城」に関しては、実行委員会や会議、予算など必要ありませんでした。その当時、パリサイ人はイエス様を逮捕したいと思っていました。しかし、イエス様は御姿を隠されたり、エルサレムにこっそりお入りになるようなことはありませんでした。一般的に言って、何かを記念してお祝いがある時は、お祝いのための飾り付けがなされ、お祝いムードで興奮している人たちが大勢集まって来るものです。主イエスのエルサレム入城の際には、人々はなつめ椰子の枝を振り、「ホサナ！ホサナ！」と叫びました。なつめ椰子の枝を振ることは、リーダーへの尊敬の意を示す挨拶でした。「ホサナ」は単なる掛け声ではなくて「今、救いを下さい」という深い意味があります。イエス様がエルサレムへ到着されたのは過ぎ越しの祭りの週です。この祭りは、エジプトの束縛から神様が解放されたこと（出エジプト）を祝う祭りです。なお、この後すぐに、人々のイエス様に対する態度は急変し、「十字架につけろ！」と叫ぶこととなります。しかし、イエス様のエルサレム入城の際は、人々はイエス様を大歓迎し、祭りで出エジプトの出来事を祝いました。イエス様により、私達は罪から解放され、御国へ行く権利を与えられています。一人子であるイエス様を私たちに与えて下さった神様は、本当に私達を愛していらっしゃいます。

イエス、イエス、イエス、私が知っている最も美しい名前  
私の全てを満たし、私は歌い続けます  
(ルーサー・R・ブリッジャー)

讃美歌 130

祈り 神様、あなたからの愛と、また私達のために一人子であるイエス様を与えて下さったことを感謝いたします。イエス様の犠牲に感謝し、生きて行けるようお導き下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ペギー・テューグ

8月27日 (木)

## 神の栄光

聖書朗読 ヨハネ 12:20~29

また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか・・・知ることができますように。  
エペソ 1:18~19

イエス様はいつも人々に深い影響を与えていらっしゃいました。多くの場合、群衆はイエス様について回っていましたが、必ずしもイエス様の話の核心を理解していたわけではありません。主イエスのメッセージは、人々にとって革新的で大胆とも感じられるメッセージでした。イエス様は、ご自身の死を通して栄光を受けられるとお語りになりました。人々の熱烈な歓迎を受けてエルサレム入城を果たしたイエス様を見たばかりの人々にとって、主の死は、考えにくいことでした。一粒の麦にご自身をたとえながら、イエス様は自分の死の必要性、そのことにより人々に救いがもたらされることを説明されました。そして、イエス様は更に、イエス様によりもたらされる永遠のいのちを得るためには、「古い自分に一旦死ぬ（霊的に新しく造りかえられる）」必要があることをお教えになりました。

主イエスは、私たちの普通の考えでは思いもよらないような方法で、ご自身の栄光を現されました。イエス様は、ご自身の苦難を通して栄光を現すことを拒否なさらずに、「父よ、御名の栄光を現して下さい」と父なる神様のみこころを祈られました。そして、父なる神は「わたしはすでに栄光を現した。わたしは再び栄光を現そう」と応えられました。その場に居合わせた群衆は、(主イエスと御父との会話を全く理解できず) 雷が鳴ったと言ったり、御使いの声だと言ったりしました。彼らは、神の声が聞えたけれども、その内容については理解できなかったのです。今日でも同様かもしれません。神の声が聞こえても、私たちは中々その意味を理解できないことがあります。しかし、私たちは、神様によって日々変えられ、神様の御心を理解できるように霊的に成長させられています。「私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられています。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです」(II コリント 3:18)。神様は、人を変え続け、神様のご栄光を現し続けておられます。ハレルヤ!

讃美歌 352

祈り 親愛なるお父様、御名を讃美します。イエス様により私たちに新しいいのちが与えられたことを感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジャニス・グリーンリーフ  
アラバマ州ハントヴィル

8月28日 (金)

## 謙虚な奉仕

聖書朗読 ヨハネ 13:12~27

わたしがあなたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。  
ヨハネ 13:15

誰かの足を洗う上で、「誰かに対して謙虚に仕える」姿勢は必ずしも必要ではありません。いやいやながら洗うことも不可能ではないからです。しかし、イエス様が弟子たちの足を洗って下さったのは、「真の謙虚さと奉仕の姿勢」からであり、それを弟子たちに教えるためでした。人に寄り添い心の傷を和らげる人、私欲を忘れ他者からの称賛や見返りを求めずに仕える人は、主イエスの洗足の精神を実践している人と言えましょう。孤独な人や病と闘っている人を助け、彼らの友となる人も、同様です。ですから、「私たちが何をするか」という具体的な行為そのもの以上に大切なのは、主が弟子たちにお教えになった「謙虚に仕える」姿勢なのです。この姿勢は、他者を自分自身のように大切に気遣う姿勢であり、これが、主が教えて下さった愛です。そしてこのような愛は、他者の心を癒し、心を神に對し開かせます。神の愛は、親が子供を世話する姿勢や、医者が患者を大切にケアする姿勢と、どこか似ているとも言えましょう。親も医者も、子のため或いは患者のために大変な苦勞をすることがあります。しかし愛ゆえに、彼らは子供を世話し続け、患者をケアし続けるのです。

私たちが他者を愛する時、私たち自身も内側から変えられていきます。それは、どんよりとした曇り空に、太陽の光を見つけるように嬉しい経験となります。

讃美歌 121

祈り 親愛なるお父様、あなたから頂いた愛を周りの人にも伝えられますようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ビル・タイナー

テネシー州ヘンダーソンヴィル

8月29日(土)

## 主イエスこそ道

聖書朗読 ヨハネ 14:1~4

すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。  
マタイ 11:28

私は、説教奉仕の機会がある時はいつでも、次のように語り始めます。「人は、『人生の指針となるような何らかの信念を持って生きたい』と思うものです」。確かに、「これこそが、人が持つべき信念です!」と様々な人々が様々な考え方を主張しています。物質主義を主張する人もいれば、自己中心主義を主張する人もいます。神様は私たちに何とおっしゃっているのでしょうか。イエス様は、私たちの人生の指針とすべきこととして、次のように言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません」(ヨハネ 14:6)。主イエスの権威について、パウロはコロサイ 1:15~21 で説明しています。主は万物を創られた方であり、万物は主のために造られたのです。主によって万物は成り立っているのです。さらに主は、十字架の血潮を通して、万物を和解させて下さるのです。

主イエスこそが、万物を御手に治めておられ、神と私たちとの和解を実現させて下さる方であるということ——これが、聖書が私たちに伝える「私たちの人生の指針となる真理」です。神様は、いつも生きて働いておられ、最終的には万物が神を讃える時が来ることを教えておられます。私たちの人生の指針となるのは、主イエスです。主イエスに対し心を開き、主に自分自身をおゆだねし、この地上での日々の歩ませてください。

讃美歌 294

祈り 愛する神様、私はあなたに、ただただ感謝するばかりです。どうぞ御心に従って生きて行けるよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

アールD・ラベンダー  
テネシー州ブレントウッド

8月30日(日)

## 大切なことを見極める

聖書朗読 ヨハネ 14:5~7

「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、また私を信じなさい。  
ヨハネ 14:1

もし、私たちがイエス様と(信仰により)繋がっているのなら、私たちは父なる神様とも繋がっています。イエス様は神様の御子だからです。ですから、私たちが天の御国へ迎え入れられるためには、信仰を通して主イエスと繋がっている必要があります。

時に私たちは、「神様と繋がるためにはどうしたらよいのか」と悩みます。トマスもそうでした。彼は「イエス様、どのようにしたら、あなたと深く繋がることが出来ますか? どうしたら、イエス様の教える道を歩むことが出来ますか?」と主に尋ねました(参照、ヨハネ 14:5)。イエス様は、その地上生涯を通して人々を教え、トマスの問いに対する答えをも示して下さいました。

現代を生きる私たちも、神様との繋がり・関係を深めるために、イエス様の地上生涯を学ぶことは重要です。さらに、生活の様々な場面において、ちょっとした工夫をすることにより、神様との関係を深めることが出来ます。例えば、忙しすぎる日常生活を、少し時間的・霊的ゆとりを持った生活に変えてみると、私たちと神様との関係は少しずつ豊かになります。そして、せわしく時間を過ごすのではなく、自然の美しさにもう少し目を向けてみてはどうでしょうか? 私たちは普段、様々なスケジュールにただ追われ、眠りにつく時には「ただ疲れ果ててしまっている」ということも多々あるかと思います。そのような忙しさから、少し自分を解放して、夕焼けを眺めたり、池の周りを散策してアヒルや魚に目を留めてみたりしてはいかががですか。空の鳥を眺めたり、庭でお花を育ててみるのも良いでしょう。家族や親しい人たちと、聖書を開いて、語り合ってみることも良いでしょう。

本当に重要な予定とそうではない予定とを整理して、神様に心の目を注ぐ時間を増やすことは大切です。そのようにして、日々与えられた一日一日を大切にしたいものです。神様は言われます。「静まって、わたしこそ神であることを知れ」(詩篇 46:10 [口語訳])。

讃美歌 90

祈り 天におられるお父様、全てはあなたの御手の中にあります。私たちが過ちをお赦し下さい。私たちが神様とさらに深く繋がることが出来ますよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ラナ・クレバンガー  
テキサス州プラノ